

## 緒言

◇ 新しい世紀をむかえながら、国文学界の停滞は目に余るものがあります。大学の改編や経済不況の煽りで時代の影響を受けたこともあります。若い人たちに対して学問研究に関心を寄せてもらえないような話題性を提供する努力の乏しかったことが、最も大きな原因ではないかと思われれます。学界の閉塞的な状況を乗り越え、個々の研究者の良心を鼓舞し、新たな飛躍を期すために、変革の礎となるべく私たちは本書を編集しました。

◇ 『知の遺産』と銘打つのは、過去の研究業績に敬意を表す意であります。そこから新たな展望を拓くために、従来の知見を見据え、疑問を提示し、解決の糸口を探る方向を示唆することによって、新たな作品世界へと踏み入れるよう配慮しました。前へ向かって一歩進むのは、本書を手にとった読者諸賢であることを切に願います。

編者

## 目次

文学史上の『竹取物語』……………	上原作和	1
かぐや姫と竹取翁……………	曾根誠一	21
かぐや姫と求婚譚……………	久下裕利	39
五人の求婚者たちと難題……………	大井田晴彦	55
帝の求婚とかぐや姫の昇天……………	上原作和	79
勅使少将と頭中将の役割……………	久下裕利	99

『竹取物語』の仏教・神仙思想……………	久保堅一	117
かぐや姫と月の「清光」 ——『竹取物語』の基層——……………	後藤幸良	143
『竹取物語』の絵画の世界……………	曾根誠一	171
『竹取物語』——研究の現在と展望 (二〇〇〇年以降の研究文献目録付載)……………	東望歩	193